

所謂こゝに實地指導と稱するものは、或は校内實習地なり家庭實習地なりの現地に於て教師の實地に指導するものであつて所謂一般の實習指導と稱するものである。従つて一定の計畫の下に而も確實たる實習の目的と對照とを以て行はれるものである。

實習指導をなす場合更にこれを對者の關係から分類したならば、團體的指導と個別的指導との二つに別けることが出來やう。

團體指導とは、或學級全體或はそれを數組に分けた分團等を對照として指導に當るのであつて多くの場合用ゐられる方法であり、個別的指導とは生徒各自についてその實習方法について指導するものであつて、特に個別指導を目的として實習をなす場合は比較的少く團體的指導をなす過程の中に隨時になさる場合が普通である。

これ等指導上に於ける注意その他については後に一括して説明する。

### (第二) 見學指導。

實地に手を下して實習せしめることも大いに必要であるが、又一面模範的農業施設經營に

ついでに實地見學とその見學に對しての指導とは、實習の効果促進上得るところが決して少くない。然るに所謂見學なるものは、大體に於て多くは見物に流れ易くして眞の効果のこれに伴はないものが多い。これは一般見學に對する態度に眞摯を缺くのと、これに對しての用意の不足とに起因することが多い。茲に吾人が特に見學をも實習指導法の一として加へたのはこれ等の誤つた見解を打破し、眞にこれを實習指導の一として利用することの下手な實習經營に優るもの多いのを確信するからである。

従つて見學を以て實習指導の一となさんとする場合この見學すべき對照とそれに對して如何なる點を主として見學すべきか、又如何なる用意を以て見學すべきかについても相當の考慮をめぐらして周到な注意の下に行はなくてはならぬ。左に少しくこれが經驗をのべやう。

#### (1)、農事試験場等の農業指導機關の利用。

學校所在地附近に於ける各種の農業の實習的指導機關については教師は時々これを視察して、その状態を詳細に知悉する必要がある。而してその中について校内實習地に於



て到底實習し得ざるが如き材料、或は校内實習地の成績で思はしくないものを抽出し、豫めこれについて生徒に十分な準備教育を施した上出發し、尙現地に於て充分な説明をなし、場合によつては先方の技術者について實地の指導を乞はしめるが如き方法をと、少くとも漫然たる見學に終らない様にするのである。従つて見學の材料は出來得る限りこれを狭小にして目的の徹底的到達を目標としなくてはならぬ。

左に本年實地に行つたもの一つについてその豫定、實行案を記述して參考にする。

麥廣蒔法の實地見學。

- 一、見學の場所 安城町愛知縣農事試驗場、
- 二、日 時 大正十四年十一月十五日午后零時、
- 三、學年 後期一年全部、
- 四、集合場所 零時學校集合、
- 五、方 法

(A) 準備、

1、教師の準備、前日試驗場に至り大要の打合を遂ぐる。廣播法についての印刷物を用意すること。

2、生徒の準備、麥廣播法について已習事項の復習をなし置くこと。

(B) 教師の指導、

印刷物につき本日試驗場で行ふ方法についての大要の説明及特に注意して見學すべき

左の諸點の指示。

畦の作り方(單條、複條)、原肥の施し方、播種法及播種量、

(C) 現地指導、

豫備知識に基いて現地見學をなさしめ、同時に指示事項に對しての説明及注意をなす。

(D) 處 理、

校内實習地に於て實習並に指導(十一月十七日晝間召集)

前記の如く目的を明確に定めての見學は、最も効果の多いことは經驗に徴して明か



あり、且つ教師にあらゆる方面に亘つて格段の技術を有することの不可能な場合更にその効果が顯著であり、その材料と方法が選良せられてゐるだけ有効である。

(2)、村内に模範農場の設置。

地方農家中にはその經歷に於て已に相當の素養があり、その素養を根柢として農業經營をして成績を擧げてゐるものもあらう。又その過去の素養に於てこれが系統的の經歷はなくとも多年の經驗と修養のため農業經營に於て他に秀でたものも少くなからう。或は何等の素養なく、何等研究的態度はなくとも農業が自然を對照とする職業であるだけにその行ふ方法が偶然の結果として自然に適應し、相當學理の上からもそれが適確な理由を附し得る結果を得てゐるものもあらう。そのいづれにしてもその結果他の模範となるものがある場合には、それが地方を立脚點としてゐるだけに地方農家が採つて以て模範とするに足るものも少くない。これらはよろしく何等かの方法を以てこれを表示して他の參考となさしめることは地方農事改良上決して徒爾ではない。のみならず將來の農業經營者たるべき生徒に對してはそれが多大の好參考たることは言を俟たない。

故に吾人は、一面自分が地方農業の指導者として立つ上に於て地方農業の状態を調査する上からも亦一面生徒教養の上からも、これ等地方農業の模範たるべき經營を調査し、それが何故にそこまで到達せるかについて研究をなすことは將來の教育上必要なるを感じ、赴任以來常にこれに對しての注意を怠らなかつたのである。その結果は、これを單に教師の生徒教養上の參考となすに止めず、實際生徒の實習上の參考とすることがより有利であることの確信を得て、村内これ等の經營を模範農業地として表示するの得策なるを信じこの施設をなした次第である。

これが選定に對しての態度も亦それを以て生徒の實習指導上に資せんとするだけに、農業經營の全體に着眼する外に部分的の模範に對してもこれを採用することにした。従つてその農場は永久的乃至一ヶ年間模範たるの生命を有するとは限らない。即ち選定上の方針をあけると次の通りである。

(A) 單に、作物栽培に限らない。その材料は農業の全體から取ることにした。

(B) 農業經營中のある一部分だけについても他の模範となるに足るものは特にその點を指



定してこれを採用する。

(C) 模範農場は、なるべく多くのものの注意を引かためるため特殊のもの外は一定題目につき多く各部落毎に乃至は接近した部落に一ヶ所は必ず設けるやうにした。

(D) 發表に當つては模範たるべき時期を豫め定めることにした。  
今以上の方針の下にこれが實施について一二例示して以てその具體的説明に代へることにする。

一、苗代の構造についての模範。

1、模範地。

大字村高郷西共同苗代、村道南西より一枚目、所有者、岩月初市氏、大字川島、火の見  
槽東、里道北、所有者、加藤松太郎氏、

以下省略、

2、模範事項、

短冊形苗代としての形状、手畦の構造、灌排水口及用悪水路との關係等、他のものに比して理想的と認む。従つて管理の便否、苗の生育状態等が他と異つて良好なるを注意する。

二、養鶏についての模範。

(A) 品種優良にして飼育法の良好なるもの。

(1)、模範地、

大字小川字天神 酒井又太郎氏宅 品種、三河種、  
同字大帳 天野勝太郎氏宅 品種 白色レグホン、

(2)、模範事項、

鶏舎の構造、鶏舎の面積と羽數、品種の優良、飼育法の適切、収益の漸増等他の一般養鶏者の模範とするに足る。

(B) 多數飼育の模範。



(1)、模範地、

大字櫻井字下谷 神谷辰五郎氏、

以上省略

(3)、模範事項、

多數飼育法の模範として他に推奨するに足る。

以上の如く村内の模範を各方面に亘つて調査してその都度これを生徒に通告して隨時に參觀して實習に便せしめると共に一方模範農場經營者にも通告してもし生徒より質問のある場合には出來得る限り懇切な指導を依頼する。幸にしてこの施設は單に生徒のみならず、地方農家の研究心をも向上せしめる上に於て多大の効果をあげつゝあるを認め、衷心喜びに堪えぬところである。

(第三) 印刷物の指導。

實習指導にせよ、見學指導にせよ、常にそれ等の方法によつてあらゆる農業事項を指導せ

んとすることは至難である。のみならず、補習學校の如く、農繁休業が多く、殊に季節夜間教授のやうなものに於ては、到底適切な時期にあらゆる適切な實習を指導することは一人の教師に於て多くの生徒を對照とするだけにいふべくして行ひ難いことである。例へば次に述べる巡廻指導にせよ、それが最もいゝ方法であるに相違なくとも村内を一巡するだけでも半日以上かかる様な農村に於ては一層それ等のみによつて實習の効果を全からしめんとすることは不可能である。

又生徒は一度ある事項について實習せしむれば、それで満足な効果があけ得られるものであるかといふに決してそんなものではない。『百姓の仕事は一生涯研究時代だ。』といはれる位であるから出來得る限り反覆して修練せしめることが大切である。けれども前言ふ通りそれは指導上至難である。茲に於て教師を離れて何等かの指導機關を設けることが必要であると考へる。この考の下に從來それ等教師の手のまはらぬ點に關して印刷物を作つてこれを配布してその缺點を補ふをその救済法の一としてゐた。而して稍成案を得たので本年度に於ては、大いにその範圍を擴張して實地指導に屬し又實際校内又は部落乃至家庭實習に於て指導



する事柄をも一度は印刷物として配付し以て注意を喚起すると共に實習指針たらしめんと試みた。即ち我校に於て配布する『農功』なる冊子がこれである。幸にこの試は大いに功を奏し、今や生徒のみならず各家庭に於てもこれを實際農業の指針となすに至つたことは誠にそれに苦心しただけに喜びに堪えぬ點であつて、今左にその『農功』誌についての大體を記述し所謂印刷物指導とは如何なるものであるかを示さう。

#### 『農功』編纂の趣旨とその概要

農功編纂の趣旨については、農功誌の第一卷なる四月上旬の卷に於て何故に農功を編纂せしかについてその理由を生徒に示したものの中に明かに示してあるからこれを摘録してこゝに詳記するを避けやう。

#### 農功編纂の趣旨

#### (一) 農業の學理と實際

農業の學理は從來實際家があまりに閉却してゐた傾向がある。そしてどこまでも舊法を

墨守してゐたがために農業の進歩は學理の進歩と相伴はぬものがあつた。しかし近年になつて學理が幾らかつゞ實際家の考慮するところとなり又一方學理研究者も實際方面の成績を重要視する様になつたため農業はこゝに一大革新の機運に向はうとしてゐるのは誠に喜ぶべき現象である。

われ／＼實際農業に従事するものは現下の農村開發上取入るべき學理は速かに取入れることに努力すべきであると共に亦大いに學理の研究をしなくてはならぬ。そしてその學理の研究は主として學校に於てするのであるが更にそれを地方化し具體化し、又復習的にし或は土壤だ、肥料だ、病虫害だといふやうに分科的に研究したものを總合的にし實際化して諸君の實習上の指針たらしめやうとして生れたのがこの『農功』である。

#### (二) 農業と季節

自然物程季節と關係の深いものはない。特に農業は自然物を對照とし收利を目的とするものであるからもし季節を誤つたりしたら如何に勞力資本をかけても思はしい結果は出な



い。殊にその中には一日二日を争ふものさへある。それ程大切な季節があるに拘らず稍ともすると等閑に附せられてもつとよい結果が出るに定つたものでも「この位のものか」或は「お隣りのよりはすつとよい。」位に軽くすまされてゐる場合もあるし又心掛けてゐてもついで外の事に追はれて忘れ勝ちになつて適期を過ぎやうな場合もある。この點を考へて一ヶ年を三十六旬に區分してその時々々に於て諸君の注意を喚起し實習上の指針としようとして生れたのがこの『農功』である。

### (三) 學校での學習と實習

學校で研究する農業には自ら時期に制限があり取扱上分科的にせねばならぬ等の關係もあつて特に實際問題に當つて細密な點まで研究することが困難であるし又實際と關係づけ具體化することは一層困難である。もしそれが出来るとしても季節が七ヶ月であるためにあと五ヶ月——この五ヶ月こそ所謂農繁期で諸君が實際家庭にあつて學理と實際とを對照して眞劍に實習する月である。——にある大事な農業事項とは直接これを實際化する

ことは至難であるし、又よし學校が一ヶ年中開校せられるとしてもさう理想通りには行くものでない。又一方學校での實習を考へて見ると地方農業の全部を學校で實習するといふ様なことは頗る困難であるし又實際一般の學校ではそれが出来てゐない。もし出来てゐるにしても見本的摸型的のものに過ぎない。これでは實際化する上の價値は極めて少い。それで學校の實習も諸君が家庭に於ての農業的作業の全體もこれは皆諸君の實習の材料ではないものはない。諸君は學校の休業季節でも「これは學校へ行かないだけで實は家庭で研究し實習してゐるのだ。家庭も學校も場所の相違だけで補習學校生徒としての修養には一日としてかはりはしない。」この態度でありたい。又現在の諸君はこの態度で修養して居られるのだ。それでその休暇中乃至は開始期間でも晝間諸君が家庭にある間に諸君が農業上の實習指針の一として一面學校實習の缺を補ふために生れたのがこの『農功』である。

### (四) 『農功』を印刷物とした理由

『農功』の中には學校で學習した事、教師の講演したこと實習の時に指導せられた事、巡



廻指導畫問召集の際に注意せられた事、已に印刷物等で教へられた事、又はこれからそれ等の方法で指導せられる事等あらゆる事が記してあつてこれ等と重複してゐる點も多い。又學年によつてはまだ習はぬことも記してある。それ等の點はこれを消略して差支ない様にも思ふが學年がちがふからといつて諸君の家庭の實習には少しもちがひはなし又一度習つた事でも全部が季節的に総合的に記憶して居られるものでもない。

それでこれはどうしても一まとめにして諸君が將來農村の開發上實際農業上の座右の銘とし虎の巻として活用する様にと考へて印刷物としたので『農功』は諸君の日々の友として生れたのである。

### (五)『農功』といふ言葉とその編纂の概要

『農功』といふ言葉は、耕作のわざ、のことをいふので左傳に、「政猶農功」とあるところからとつたのである。

この『農功』は毎月上中下の三卷に分ち一ヶ年三十六冊で完結する豫定である。そして

編纂に當つて四月上旬の農業は三月下旬ののに載せ八月中旬のものは八の上の卷に十一月下旬の農業は十一の中の卷に收めるといふ風に一句づつ繰上げてある。これはその時に當つて既に前から用意が出来てゐる盗人を見て繩をなふ的なことに陥らぬ風にしたいたの考へからである、そのつもりで活用してほしい。

終りに臨んでこの『農功』によつて諸君が多少でも得るところがあれば幸甚である。

更にその概要を説明するならば、一ヶ年十二ヶ月を更に上、中、下の三句に分ち、その一句中に於ける地方の農業的事項のあらゆるものを調査してその各事項についての實際經營上の方法並に注意事項を地方に立脚して綿密に調査し、これを印刷して、例へば四月上旬に行ふべきものはこれを三月下旬の卷に收め六月中旬の事項は六月上旬の卷に收める如く一句宛早目に印刷し、前以て農業實習についての注意と準備とをなさしめんとしたものである。外に特に地方農業の主業たる稻作については『稻作指針』として別卷としてまとめることにした。更に最後に總目錄一卷を附して索引に便し、都合三十八卷を以て一部に完成したのである、これを蒐録した題目は、四百八十要項に亘りその總頁數は、一頁二十



六行一行二十三字詰で一千〇六十八頁に及んでゐる。

試みに三月下旬の巻の題目を挙げると次の様である。

麥の中耕

蠶豆の第二回補肥

秋蒔牛蒡の第二回補肥

トマトの移植

胡瓜の第三回移植

鵲豆の下種並栽培設計

菜豆の下種並栽培設計

春蒔牛蒡の第二回間引

春蒔胡蘿蔔の第一回補肥間引

セルリーの播種と栽培設計

玉萵苣の播種並栽培設計

枇杷の栽植

蜜柑の栽植

軟化土當歸の收穫

半促成茄子の定植

稻藁の處理法

施肥法一般

(總頁數三十九頁)

尙その詳細は實地『農功』について参照せられたい。

これと同時に一般農家に向つても農家の毎月行事とそれに對する注意事項とをカレンダー形式に印刷して配布する豫定であつたが經費の都合上明年度までこれが延期の止むなきに至つたのは遺憾である。

以上を以て吾人の所謂印刷物指導たるもの大要は理解し得らるゝことと信ずる。



(第四) 巡廻指導

生徒の家庭又は部落實習地等を巡廻して指導するものであつて、これについては教師の多大の努力と親切と、相當の準備とがなかつた場合には勞して效なきに終ることは明かな事實である。

巡廻指導についての注意をあげるならば次のやうなものを示すことが出來やう。

- 1、巡廻指導に當つて教師は必ず一定の目的を以て出發しなくてはならない。
- 2、巡廻指導の日は豫め生徒にこれを示しておいてその時刻には出來得る限り生徒は自己の實習地乃至その附近にあらしめる様にする。
- 3、指導に當つては最後に指導の要點を簡略に巡廻指導簿に複寫記入し、その一を生徒に與へ以て處理を要すべきものについてはその處理の結果を報告せしめる様にしなければならぬ。

本校に於ける指導簿の形式は次の通りであつて、複寫用として簿冊としその中一枚はミシンを入れておいて離し得る様にしてある。

No.		大字 字	
大正 年 月 日		學年 通學團	
巡視概況及注意事項		結果の處理	
作物名	校長	主任	

本表複寫紙ニヨリテ同時ニ二通  
 テ認メ得ル如クシ其一通ハ巡視  
 ノ際生徒ニ與ヘ他ハ是レヲ本簿  
 ニ留置キテ保管シ以テ他日ノ成  
 績資料トナス。

- 4、一時に多くの事項の指導をなさんとするよりは、事項を簡略にして巡視の回数を多からしめることに努める。
- 5、巡廻指導の場合に於て同時に附近の農業状態等についての批判的の會話をなすことは大に効果がある。



(第五) 商議員の設置

教師が農業の各般についてその極微細な點にまで徹底することの到底不可能なことは已にしばしば述べた通りであり、一方地方農業者中にはそれが篤農といはれるまでとなくともある一技能については地方農家乃至は將來の農業者のために模範となり得るものも少くない。これ等のものを校下に求めてこれを學校の實習指導に利用することは極めて意義があり又實習の効果を促進せしめる上に効果がある。これについて我校の施設は左の通りである。

櫻井農業補習學校商議員規定

第一條 本校教育ノ目的ヲ達成センガタメ、ソノ諮問並指導機關トシテ商議員ヲ置ク

第二條 商議員ハ左ノ四種ニ分ケ各項該當者ニツキ村長コレヲ依囑ス

第一種 村會議員、區長、區長代理者、學務委員、役場吏員、駐在警察官ヨリ選出セルモノ

第二種 村内有識者、名望家、神官、僧侶ヨリ選出セルモノ

第三種 在郷軍人分團、青年團役員、村内産業團體役員中ヨリ選出セルモノ

第四種 村内農業ニ従事シ特殊ノ技能ヲ有スルモノ、中ニツキ選出セルモノ

第三條 商議員ハ名譽職トス

第四條 商議員ノ任期ハ第一種第三種ニアリテハソノ職ノ在任期中トシ第二種第四種ニアリテハ特ニ其ノ期限ヲ定メズ

第五條 商議員ノ任務ヲ定ムルコト大要左ノ如シ。

一、第一種及第二種ノ商議員

常ニ本校各般ノ事項ニ留意シ意見ヲ學校長ニ開申シ又學校長ノ諮問ニ答へ其他補習教育ノ目的達成ニ關シ援助ヲナス

二、第三種商議員

生徒ノ出席風紀ノ狀況ニ留意シコレガ善導ヲナスト共ニ意見ヲ學校長ニ申告シ又ハ學校長ノ諮問ニ答へ或ハソノ依囑ニヨリ指導ニ任ズ

三、第四種商議員



本校實業科教員ヲ助ケテソノ諮問ニ答ヘ或ハ校内及部落實習地經營上ニ對スル意見ヲ開申シ尙教員ノ依囑ニヨリ實業科指導ノ任ニ當ル。

四、各種商議員ハ時々學校ヲ參觀シ自己ノ意見ヲ開申スベシ

第六條 毎年一回以上商議員會ヲ開催シ校運振興上ノ各般ノ事項ヲ協議ス

但必要ニヨリ臨時會ヲ開キ或ハ種別商議員會ヲ開クコトヲ得

右の中第四種商議員が茲にいふ實習指導機關となるものであつて、教師は常によくこれ等の商議員との連絡をはかり、生徒實習指導に資することとしてゐるのである。

(第六) 隨意指導

以上各種の指導は豫め計畫せる實習についての指導である。然るにそれ以外隨意的に起る問題に對しての指導であつて我校の試みつゝあるものには次の様なものがある。

1、質問機關の設定

學校からは生徒の要求に應じて左記の様式の質問用紙を配布し置き、生徒は自己の家庭

作業其他について不審を生じた場合にはそれに記入して小學校兒童に託して學校に送附せしめる。教師はその質問が直接筆答にて解答し得るものにあつては餘白に記入して返付し、又直接生徒に面接し、或は實地についての指導を必要とする要件に關しては、生徒を學校に招致するなり、巡廻指導等の機會に生徒を訪問して解答するなりの方法を講じて以て彼等の疑問に満足なる解答を與へることとしてゐる。

これ亦漸次生徒の利用するもの多く相當の効果を收めてゐる。

質問用紙様式

質 問 用 紙		提出 月 日	大正 年	通學 國名	年 學	氏 名
處 理	項 事 問 質	受 付 月 日	大正 年	回 答 月 日	大正 年	校 長 認 印
						回 答 者 認 印

櫻井農業補習學校用箋



(2) 特殊研究者の特別指導。

生徒の自發的研究を奨励せんがため、毎年四月學年始めに於て各生徒の特殊研究を奨励して、各自その題目を決定せしめる。しかしこれは強制的に行はしめる性質のものでもないから初期に於ては必ず各自にとりふ程の強制はしない。

かくて題目が定まり、その方法等も大要豫定がついたところでそれに向つての指導を開始することになる。この指導は勢その材料が多方面に亘るため、全部の指導を教師が行ふといふよりはむしろ、教師は適當なる研究方法の指導、研究の伴侶となるべき先輩者の紹介等を行ふし、努めて生徒独自の活動によつてその研究の遂行せられる様に導いてゐる。

本年はこれを試みて最初の事であつてまだ目覺しい研究も出来ない様であるけれども生徒にこれに對する興味の喚起は充分に出來たものと確信してゐる。

(3) 指導申請。

家庭實習地、部落實習地に向つては巡廻指導の回數を多くしてその徹底を期するは勿論で

あるけれども、生徒のその經營に眞劍味を生ずるに従つて學校からの指導だけでは物足りなくなる場合が生ずるのは當然で、われ／＼は亦彼等を其の點にまで導きたいと念願してゐるのである。

それで學校では、彼等がその經營の實際に當つて教師の指導を待ち得ざる場合又は進んでかくありたいと考へる點に向つて遠慮なく學校へ指導申請を提出せしめる道を開いてゐる。この申請のあつた場合は如何なる事項もこれを繰合せて生徒の要求に應じ少くも生徒のこの研究的態度を阻止せざらんことに心掛けてゐる。

申請書例

苗代害蟲驅除實習指導申請

提出者 印内通學團部落實習地

六月七日 提出 代理者 團長 長谷部繁雄<sup>印</sup>

一、指導項目、稲苗代に於ける害蟲の驅除（製劑及方法）

一、指導場所、製劑の場所、團員、長谷部岩一宅



驅除方法 苗代にて實地指導

一、指導希望月日 六月十日午前九時より

一、害虫發生の狀況

害虫はあをむしにして現在體の大き一分五厘より二分位にして平均二十本に一匹位發生し、盛に葉に害を與へつつあり。この外苗代に異狀なし。

右苗代に於ける害虫驅除實地指導相成度此段申請候也

櫻井農業補習學校長殿

學校に於ては右の如き申請書を受理せし場合學校長はこれを專任教員に廻付し專任教員は指導に要する藥品其他器具の準備等につき前日中にこれを認め申請者に通達し準備を命じ、當日定刻に出張してこれが實地指導をするのである。生徒の發意になるだけに熱心であつて指導に愉快を感じるものである。

第二節 實習指導の準備

(第一) 實習項目の選擇排列。

實習項目の選擇は、教科との連絡に重きを置くことは勿論であつて、教材の選擇が地方の農業との關係を特に重きを置く以上、實習項目の選擇もやはり地方農業の狀況によつて支配せられるに至ることは勿論である。併しながら實習の目的は、又學校實習によつて地方農村現在の農業狀態の改良發達をも企圖しなければならぬから、項目選擇に當つては地方農事試験場等農業指導機關の試験成績等を常に研究考慮して、時々項目の改正を行ひ以てその實蹟を擧げることによつてはならない。

尙實習指導の範圍を已に記した如く廣汎に取る場合、その項目に於ても單に校内に於ける實習のみに限らずやはり廣汎に取り入れてこれが指導の準備をなすの必要がある。

選擇せられた實習項目の排列に依つても亦大に考へなくてはならないが農業の如く期節と密接の關係あるものに於ては排列上の第一要件は、期節に適應せしめることである。しかし期節とあまり關係のない實驗の如きものをその間に挿入して排列上の均衡をとるがよい。更に排列に當つては學年によつての關係である。これはやはり教科の程度に準據すべきもの



であつて茲に特にのべるまでもないと考へる。

### (第二) 實習指導曆。

實習項目の選擇が出来それが學年に排列せられた場合、更にこれを期節に排列して、指導の時期を誤ることのない様にするには最も緊要なことであつて、殊に農業の作業の様にもしその時期を一日誤つたならば直ちにそれが收穫に大影響を及ぼす様なものにあつては一層この注意が必要である。このためにはどうしてもそれに準據して誤のない實習指導曆を作製することが緊要である。

指導曆の作製上第一注意すべきことは指導曆中に記載した指導の時期と指導事項とが實際農家の事業の直前に來る様にし、指導せられた實習事項が直ちに家庭で應用せられるものである様にしたいのである。この事は甚だ容易の様であつてしかも仲々に面倒であり、机上の研究では決してその完璧を望むことは出來ない。

この方針の下に過去三ヶ年に亘つて實際的研究を遂げた結果排列したものが卷末に示す實習指導曆である。

これが内容並にその利用の方法に至つては、實物について一見すれば最も明瞭な事と信ずるが故にこゝにはこれを省略することとする。

### (第三) 實習指導案。

實習曆により實習の題目、實習要項とその指導の方法が決定した時、いよ／＼その指導に當つては更にこれに準據して細密な實習指導案を作成して以て實習を有意義たらしめるの用意が必要である。併しこの指導案こそは一定すべきものでなくて、その實施の直前に當つて教師が綿密に作成すべきものである。所謂教授の場合に於ける教授案に當るものであつて、この指導案は指導の方法によつても一律にその形式を定めることは出來ない。今參考として校内實習に於ける指導案の一例を示して見やう。

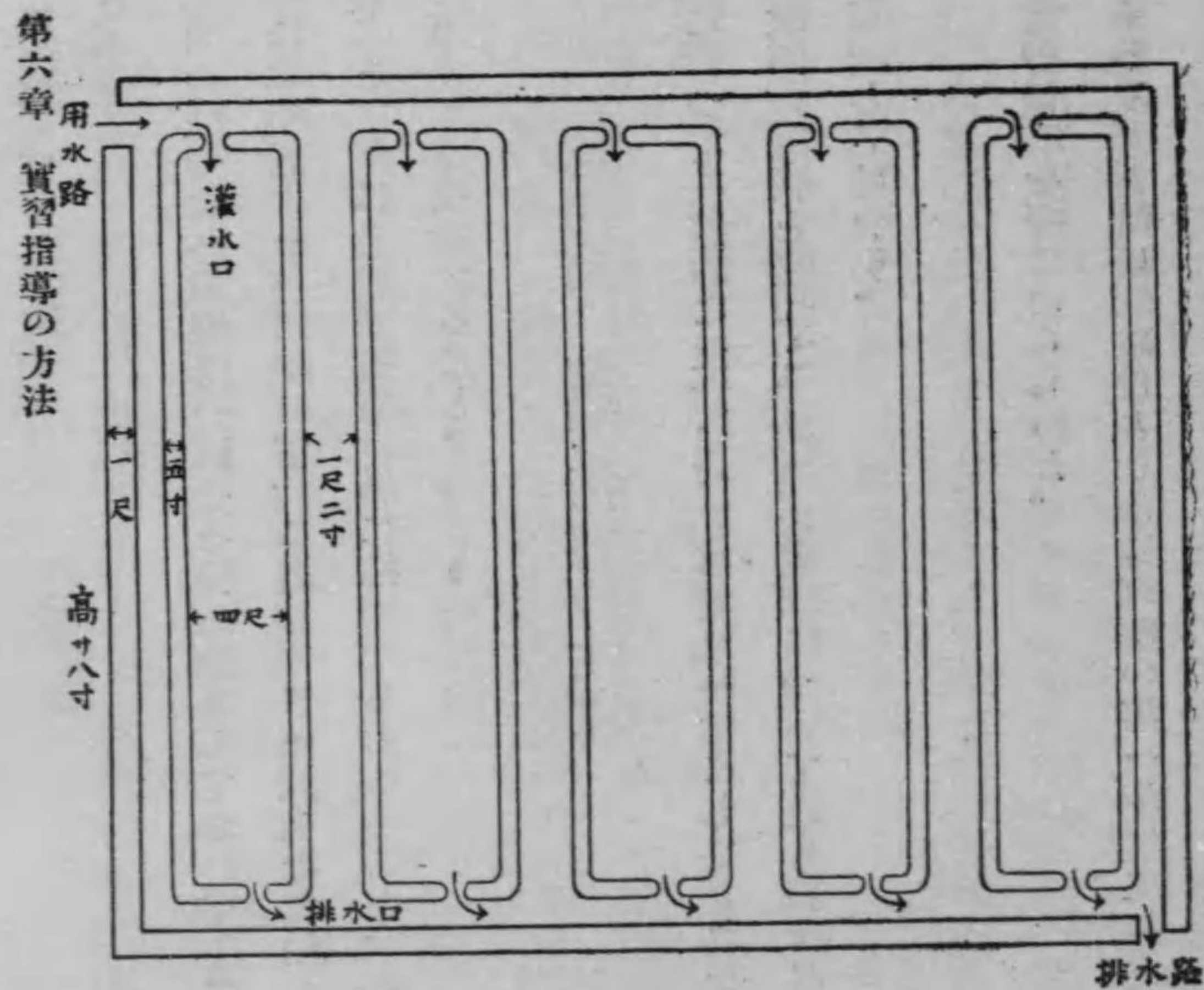
#### 後期第二學年實習指導案

一、實習題目、 稻水苗代の整地、短冊形、五區を作る、面積時代三十坪、



# 短冊苗代設計圖

(坪十三積面圖)



- 間繩、間竿の用法  
と、區劃の決定、  
↓全體的取扱、
- 3、苗代作成法の指導
- 4、實習、  
手畦の作成、土壤  
の細碎、灌水、原  
肥の施用、  
土面の均平、灌排  
水溝の作成、
- 六、参 考、  
苗代設計、  
(上圖)

二二二

## 第三編 實習指導論

- 二、教科連絡、  
教科書、稻作篇、第六章、苗代、
- 三、準備、  
備中鋏、各組二、(全體) 平鋏、各組一、(全體)  
灌排水用、板竹筒各五、撞木、各組一、

原肥一坪當、 全體(三十坪)

餅粕、三合、 九升、

過磷酸石灰、五勺、 一升五合、

藥灰、三升、 九斗、

間繩、間竿、

- 四、指導期間、  
四月二十九日、午後二時より晝間召集、

- 五、實習指導、

- 1、理想的稻水稻代につきての教授事項の問答、

- 2、苗代全面の區劃、

短冊形の大小別圖の通り、

二二〇



七、注意

- 1、肥料の配合は各種別に一區分を豫め計量しておいて各組に渡すこと、
- 2、特に本年度より各家庭の苗代に灌排水口の設備を奨励して常に灌水面の適切を保たしめること。故にこれが實習は特に綿密ならしめること、その方法は『農功』四上二十頁を参照する様注意すること。

第四節 實習指導の注意

實習指導に當つて全體的に注意すべき事項は一言にしてこれを言へば、周到なる注意と、方法に對する教師の確信と懇切と、結果の處理について最も綿密ならしめることにある。今尙少しくこれを細説して見やう。

(第一) 實習の目的を明かならしめよ。

何事によらず、目的の明かなところに理解の第一歩は生れる。目的なき動作は妄動であつ

て何等の反響を對者に與へるものでない。

如何に簡單なわかりきつた實習作業と雖もその作業に取からしめる前に於て充分その目的を明にしてやる必要がある。殊に農業の様な機械的因習的に行はれ易い作業に於ては一層これが忽がせにせられ易い傾向がある。

殊に現在農民の最大缺點は經濟的觀念の乏しいことである。故に實習を課する場合に於ては單に實習せんとする事項に對しての皮層的の目的を確認せしめるに止まらず、宜しくそれを經濟的立場にまで結びつけてやる必要がある。吾人は目的の明確とは農業が經濟的生產事業であるだけこの點に一層留意する必要がある又かくある時に於てこそ今日の實習指導は革命的効果を齎すものであることを信じて疑はない。

(第二) 實習の準備に對して遺憾なからしめよ。

教師は實習を指導せんとするに當つてその指導すべき事項に對して最も綿密な方案を腦裏に書きこれによつて指導案を作製することは已に前節に述べた通りであるが、この案によつ



ての準備は遺憾なき迄に完全したものでなくてはならぬ。遺憾なき準備は實習の大半をなし遂けたと同様であつて、苟も實習の實際に臨んで用意の不足等があつてはならぬ。このためには平素から充分の用意がないと準備の出来ざるがために良好な時期を経過する様な場合も少くないのである。

(第三) 指導の時期を誤るな。

これについては已に述べた通りであつて、完全な指導暦が作製せられてゐる以上それに準據すれば大體誤りはないのであるが、それでも何かの所用にたまけて遂適切な時期を過ぎ様な場合がないでもない。もしそんな場合には、もしそれが永続的の作物栽培實習の様なものであると、その栽培期間中成育の不良をかこち、遂には結果の不良を來して、實習生徒の失望を來し、實習の興味を殺ぎ、學校で行ふ方法に不信をいだくに至る様なことも決してないとはいはれない。よく／＼心すべきことであると考へる。

(第四) 實習作業中は自覺的に行動せしめよ。

實習に興味を持たしめることは實習指導上の一大要件である。一般の生徒が農業を厭ふ一理由として『實習がうるさいから』といふやうな聲を聞くことが往々にしてあるが、かくては農業教育は零である。どうしても生徒をして『實習は愉快なものだ』との觀念を持たしめる様にした。

この興味は色々な方面からこれを養ひ得ると思ふ。例へば實習慰安會の施設(後説)の如きたしかにその一には相違ないが、最も高級であつて然も眞實な興味を喚起せしめるものは、實習そのものを自覺して行動せしめることにある。

この事はいふべくしてその實現は仲々困難なものであつて、到底一朝一夕の事ではないと考へるが、教師が特に茲に留意して生徒をして一時の苦痛を堪え忍ばしめるだけの忍従があつたならば必ずこの境域に達せしめ得ることは經驗に徴して明かである。即ち我校の過去現在を省みて、過去に於て實習に不平の多かつた現在の上級生がむしろ現在の下級生よりは實習指導監督上極めて愉快であり容易であるが如きは、明かにこの邊の消息をあらはしてゐる。



ものと確信する。即ち教師は實習を自覺的に行動せしめるためには一時は敢然立つて彼等生徒の敵となり、よくそれを耐え忍んで以て遂に生徒自身の自覺的活動にまで導く必要がある。

(第五) 實習の経過を反省せしめよ。

『實習が済んだら片付いた。』といふが如き感を持たしめることは、それが實習を自覺せぬ事ともなるが、最も忘れ易くて大切なのは、この實習後に於ける経過の反省である。自己の経過と他のものの経過との比較反省、實習方法の反省、その方面は色々あらうけれども、兎に角實習に於ける経過は充分反省して以て採長補短につくさなくてはならぬ。

(第六) 實習の跡始末結果の處理。

何事も跡始末が大切である。跡始末の不十分なものは所謂千鈞の功を一簣に缺くの類である。實習地の跡始末、農具其他用具の跡始末、等そのなすべきものは決して尠くない。これ

が整理に對して實習指導の最初から充分の訓練を施すことは特に必要な事項であつてしかも行ひ難いことである。

加之實習の結果の處理に至つては尙一層その事が面倒であるだけに必要を叫びつゝ、その實行の不能に終ることは決してその例は少なくなからうと考へる。例へば校内實習地に試験區を設置してこれが經營に當つてその経過せる間に於ける實習は兎も角も遂行せられたとしても、さていよ／＼その試験の成績を考査するに當つて果してよくそれが精密に調査せられるまでの努力が連続せるや否やになると疑問の場合が多い。この點は特に教師の熱心と努力とに待つものが多い様である。實習指導に當るものはよろしくこの點について猛省の必要はなからうかと考へる。

要之實習指導の注意は、一は生徒が興味を以て實習に當つてよくその目的を自覺するにある。かくの如くせんとする場合には、教師は只畦畔に立つて顔を以て指揮するを止め、全實習生の作業の全努力以上の努力を捧げるの決心を以て指導に當るの熱を持ちたいのである。



## 第七章 實習の結果處理

### 第一節 實習日誌

一實習を終つた場合には其の度毎にそれに對して適當の處理をなすことの必要は已に前節に述べた通りである。

このため行ふ方法としては實習の経過を記録する實習日誌を以てするがよい。實習日誌は教師用として記入するは勿論であるが、生徒各自にもやはりこれを所持せしめて、その都度記入せしめ、實習最後の結果の現はれた場合その過程に於ける参考とせしめることが必要であつて、この二つについてはこれを説明するを略して只その形式を示してこれに代へやう。

#### (第一) 教師用實習日誌。

(用 師 教)				月	曜	日	題	年	學	天	候	氣	温	風	擔	任	者
考 備	事		記	實 習 經 過			目	年	學	天	候	氣	温	風	擔	任	者
	濟	經		過	經	習											
	其	勞															
	他	力															
				實 習 人 員	人	實 習 時 間	時	分	延	人	分	同 反 當					
				一 人 當 勞 銀		勞 銀 合 計											



(用 徒 生)

感 所	法 方 の 習 實	月 日	曜	天 候	氣 温	風	検 閲	批 評
		目 題						

(記載事項の長短により所要面積に多少を來すを以て、特に一定した印刷物を用ゐず、洋罫紙を綴らしめて置いて最初から順次所要だけを區劃して記入せしめることにする。)

### 第二節 實習慰安施設

實習慰安の施設も亦有意義なことであり、殊に實習の經營が自給自足になされる様な我校に於ては一層これが生徒の實習獎勵策として効果のあることは經驗に徴して明かである。

即ち我校の施設としては毎年二回校内實習地の經營の區切のつきたる田植の終了後と、稻收穫後とに慰安會を開催することとしてゐる。前者はこれを名づけて、粒々會と稱し後者はこれを豊年會といつてゐる。

當日は女子部生徒の家事實習として粒々會に於ては、うどんの準備をなさしめ豊年會には、おはぎの準備をせしめる。

その會に集るものは本校商議員(村内有力者篤志家の全部を含んでゐる。)職員生徒全體であつていつも二百に餘る大勢で、準備も前日からそれぞれ手配をする有様である。

かくて本校長の開會辭につき君が代の合唱があり、農業科擔任教師の實習報告、學校長の訓話、來賓の農談祝辭が終つて會食に移る。一度にどつと食べ初める有様は誠に見られない喜び



と勇ましさがある。

この會食中生徒及職員の餘興があつて愉快に會を終るを常としてゐる。今この實際を示すために大正十四年度の豊年會の實際を示して見やう。

經費

金四拾六圓七十錢

内 譯

會食費 四一、五〇〇

接待費 二、〇〇〇

雜費 三、二〇〇

出席人員

二百三十五人

内 譯

商議員 二十八人

學校職員 十二人

生徒 百九十五人

會の順序

一、一同敬禮

一、開會の辭(學校長)

一、唱歌君が代

一、栽培實習の報告(農業科擔任教諭)

一、學校長訓話

一、來賓祝辭

一、會 食

餘 興

職員生徒の唱歌、詩吟、てじな、談話、來賓の談話、

一、閉會の辭(學校長)

第七章 實習の結果處理



### 第二節 品評會

實習地生産品ニ校内、部落、家庭ニ并に生徒の實習製作品を一室に陳列して相互獎勵に資することは實習最後の任務として重大なものである。殊にそれ等出品物に對して高學年生徒をして審査の練習をせしめることは、正しい鑑賞眼を養ふ上に利するところがある。このための施設としてはよろしく品評會を開催すべきである。

我校に於ける品評會規則を左に示してこれについての大意を知るに便することとする。

#### 品評會規定

第一條 本會ハ農業實習ノ目的ヲ達スルタメ毎年一回、一月一日ニ本校内ニ開ク。

第二條 本會ノ出品ハ米、麥、蔬菜、果實、製作品トス。

但シ參考品ハ此ノ限リニアラズ。

第三條 出品者ハ補習學校生徒及高等小學校兒童トス。

第四條 出品生産物ハ審査ノ上優等ノモノニハ其ノ出品者ニ對シ一等ヨリ二等ニ至ル賞狀并ニ賞品ヲ授與ス。

第五條 出品者ハ出品物ニ品種名、學年氏名ヲ附シテ所定ノ期日迄ニ提出スベシ。

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

- 一、會長 一名 學校長ヲ推載ス、
- 一、審査長、一名 本郡農會ヨリ派遣ヲ乞フ。
- 一、書記 三名 補習學校小學校職員中ヨリ會長指名ス、

第七條 出品物ノ飾付并ニ陳列ハ本會ニ於テ行フ。

第八條 褒賞授與式ハ品評會當日之ヲ行フ。

第九條 本會ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム。

#### 品評會細則

第一條 本會ノ出品數量ハ左ノ如ク定ム。

第七章 實習の結果處理



米 各部落實習地毎ニ俵米一俵

麥 一種ニ付五合トス

葉菜類 同 一把、三個

根菜類 同 同

果菜類 同 三個乃至七個

果實類 同 同

農業手工品農産製造品、一個以上

第二條 出品物ノ東裝ハ市場ニ於テ販賣スルモノニ倣フモノトス。

第三條 出品物ハ品評會ノ前日午前中ニ本會ニ提出スベシ。

第四條 出品ノ時期ニ遅レタルモノハ之ヲ審査セズ。

第五條 出品物ノ陳列ハ本會役員ノ指圖ニヨリ通學團長之ヲ行フ。

第六條 米ハ審査ニツキテハ立毛審査ノ成績ヲモ加フルモノトス。

第七條 出品物ノ審査ハ品評會ノ前日ニ於テ之ヲ行フ。

第八條 出品生産物ノ優等賞ハ出品點數ノ三分ノ一以下トス。

第九條 出品物ハ品評會ノ翌日出品者ニ返付スルモノトス。

第十條 本會役員ノ任務左ノ如シ。

會長ハ本會一切ノ事務ヲ統轄ス

審査長ハ出品物審査ニ當ル

書記ハ會長ノ命ニヨリ一切ノ事務ヲ掌ル。

品評會について所感

本校は大正八年の創立以來毎年の行事として品評會を行つて來たが、始めの中は出品物も少く其の品質等も不良のものが多かつた。

けれども年を重ねるに隨つて次第に優品を出すものが年々増加してきて、今日では品種の優良なものを選ぶといふことに着眼するに至つた。

殊に米に至つては縣農會より優良品種の交付を受けて栽培する様になり、栽培の方法乾燥調



製に至る迄研究的態度をとる様になつて一段の進歩を見るに至つたのは誠に喜ぶべき現象だ。蔬菜に至つても原産地から種苗を取寄せる様になつて競争的に栽培するので、耕種上にも餘程の發達を見るに至つた。

又出品點數も次第に増加し大正十四年度に至つては生徒一人當二點以上を出品する様になつて、其の總點數六百五十二點に達するに至つた。これを大正八年の二百十五點に比較するに三倍以上の増加である。

優良品を多く出し出品點數を増す様になると共に村民の注目するところとなり年々參觀者を増加するに至つた。しかし吾人は之を以て決して満足すべきものではない。この品評會を通じて村内農事の改良進歩に資せやうと考へてゐる。

農業補習學校 高等小學校 實習指導の研究 終り

附錄一 實習指導曆

指導季節 始期終期	四月 一日	四月 十日	四月 二十日	四月 三十日
實習ノ種類	實習組編制 實習設計	自由研究	稲作 選種浸種	
指導事項	實習組ノ編成及組長及副組長任命 (一)校内實習地實習設計ノ大要提示 (二)稻ノ品種選擇ニ對スル指導 (三)部落實習地稲作設計書編成上ニ對スル指導 個人自由研究設計ノ提出及其指導		(一)選種(澗水糞法ノ實習) (二)浸種(桶浸、川浸シ、池浸シ、及其ノ得失)	
指導方法	印刷物及講述 印刷物	印刷物	方法ハ提出問題ノ性質ニヨリ各適宜之ヲ定ム 畫問召集	同
配學當年	全	全	全	後一 同 後三
摘要	前年度本村稲作狀況及農業試驗場等ノ成績ヲ參酌ス	各部落	申告ハ隨意コレヲサシメ強制セズ 校内實習地	同



月四	月四	蔬菜	蔬菜	果樹	麥作	整地(一)	苗代(一)
同上	同上	胡瓜、南瓜、鵲豆、伊勢芋、茄子、	豆ノ播種(上旬中ニ播種) (一)玉蜀黍、菜豆、刀豆、鵲豆、虹 (二)牛蒡、胡蘿蔔、里芋、蕷、落花 生、甘蔗(中旬中ニ下種) (三)西瓜、甜瓜、蕃茄(中旬中ニ下種)	土寄上ノ注意喚起 (一)ホルデー液ノ調製(三斗式) (二)石灰硫黃合劑ノ調製(ホーメ比 重計三斗)	土寄上ノ注意喚起 (一)ホルデー液ノ調製(三斗式) (二)石灰硫黃合劑ノ調製(ホーメ比 重計三斗)	(三)苗代、整地(耕起、整形、整地)短 冊形) (四)本田ノ耕起	同
全	全	後一	後一	後二	後二	高等	同
		同	同	同	同	同	同
		家庭實習團	(以下同)	各家庭ノ希望 ニヨリ藥劑調 製購入ノ求メ ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ藥劑調 製購入ノ求メ ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ藥劑調 製購入ノ求メ ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ藥劑調 製購入ノ求メ ニ應ズ

月四	日一十	定植	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶
月四	日一十二	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶	養蠶
植物生理	農業實驗	2 掃立上ノ 注意	1 病虫害ノ 防除	蕃茄、定植上ノ注意(四月下旬中ニ 實施)	蠶室蠶具ノ消毒 1 昇永消毒劑ノ調製 2 クロール石灰消毒 劑ノ調製 3 フォルマリン使用 法	蠶掃立上ノ注意 1 催青 2 掃立	蠶掃立上ノ注意 1 催青 2 掃立
夜間教授 及晝間召集	印刷物	晝間召集	晝間召集	晝間召集	晝間召集	晝間召集	晝間召集
後一	全	後三	後三	後三	後三	後三	後三
夜間ノ通常農 業科ノ時間實 驗方法目的ヲ 授ケ實驗ニ着	各家庭ニ向ッ テモ注意ヲ喚 起ス	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ	各家庭ノ希望 ニヨリ消毒劑 ノ調製及購入 ノ求ニ應ズ



日 十 二	稻作 苗代(二)	(一) 稻ノ播種法(五月上旬) (二) 苗代ノ管理(灌溉、排水、病虫害ニ對スル諸注意等) (三) 本田ノ塊返(五月上旬)	印刷物	全	手シ、結果ノアラハレタ時 晝間召集、整理
日 十 三	蔬菜 手入	胡瓜、南瓜、茄子、甜瓜、馬鈴薯、蕃茄ノ手入(五月上旬)	同	後、一、二	
	果樹 摘花 病害豫防 養蠶 飼育上ノ注意	(一) 梨ノ摘花(五月上旬) (二) 梨、葡萄ノ病害豫防 春蠶飼育上ノ注意 (一) 給桑上ノ注意	晝間召集 印刷物	後三 全	

日 一 月 五	肥料 稻作	(一) 稻作肥料ノ配合法及肥料配合上ノ諸注意 (二) 肥料主成分ノ計算法	印刷物	全	地方一般陸稻ノ栽培少ク且今後獎勵スベキモノニ非ザレバ簡略ニ取扱フコト
日 十 月 五	稻作 陸稻	(2) 分箔除沙ニ對スル注意 (3) 熟蠶撰取上ノ注意 (4) 就眠前及就眠中ノ注意 (5) 起蠶ニ對スル注意 (6) 上簇中ノ注意 (7) 溫度ノ高低及乾濕ニ對スル注意 陸稻ノ下種及栽培上ノ諸注意 (五月中旬)	印刷物	全	



蔬菜 手入 採取 施肥	果樹 摘果 病虫害 病害豫防 虫害驅除 豫防及驅 除劑調製	梨及桃ノ摘果 (一)病害 1 茄子ノ立 枯病 2 胡瓜ノ露 菌病 3 西瓜、桃 ノ炭疽病 4 甘藍ノ黒 腐病	印刷物	全	校内實習地ノ 發生病虫害ハ ソノ一部又ハ 全部ヲ保存シ テ實習材料ト シ、校内實習 地ニ材料ナキ モノハ豫メ材
(一)馬鈴薯ノ土寄(五月中旬) (二)牛蒡、人参、蕓、豌豆、蠶豆ノ 採取(五月中旬) (三)水田裏作ノ甘藷及胡蘿蔔、牛蒡 施肥(五月中旬)	豫防 (五月中旬ヨリ)	畫間召集 畫間召集及 印刷物	高等	全	

5 葡萄ノ黒 痘病、白澁 病、露菌病	6 桃ノ縮葉病	(一)虫害 1 桃ノ象鼻 虫 2 甘藍ノ夜 盜虫 3 牛蒡、茄 子、梨、桃 ノ蚜虫 4 瓜類ノ瓜 守	(三)病虫害防除劑調製及使用方法 1 石灰ボル ドー液	料ヲ蒐集シテ クヲ要ス
驅除 (五月中旬ヨリ)				



養蠶	農産製造 シヤム 肥料	2 石灰硫黄 合劑 3 銅石鹼液 4 除虫菊ナ フタリン硫 黄合劑 蠶病ニツイテノ注意 雙蛆病 硬化病 軟化病 卒倒病 蠶ノシヤムノ製法(五月中旬) (一)土肥(金肥ニ土ヲ混シ腐熟セシメタルモノ)ノ製法及施用法 (二)腐熟豆粕ノ製法及施用法 (三)綠肥ノ施用法(校内實習地ニテ實習)(五月中旬)	印刷物	全
			印刷物	全
			書問召集及印刷物	後三 高等
				豫メ製品ヲモ用意シオクコト

	日 一 十 月 五			
	日 十 二 月 五			
巡廻指導	稻作 苗代管理	家庭實習團巡廻指導 主トシテ蔬菜栽培狀況ニツキテ	巡廻指導	全
麥作 審査	苗代管理	苗代ノ管理 灌溉、排水ノ狀況、手入ノ良否、苗ノ生育狀況病虫害ノ狀況等 家庭實習團麥作ノ立毛審査	同上	各部落 實習地
蔬菜 施肥 手入 採收	同上	(一)茄子、胡瓜、蕃茄、西瓜、秋冬ノ第一回補肥(五月中旬) (二)胡瓜ノ摘心(五月中旬) (三)長薯ノ支柱(五月下旬) (四)莓ノ採收(五月中下旬) (五)甘藍ノ採收(五月下旬)	同上	全
			書問召集及印刷物	後二
				校内實習地



果樹	夏期剪定 梨、葡萄、桃	畫問召集及印刷物	後三 高等	校內實習地
病虫害	驅除 ——六月中旬 (一) 螟虫ノ驅除法(成虫期五月中旬) (二) 柑橘ノ瘡痂病 (三) 梨桃ノ袋掛	印刷物 畫問召集及印刷物	後三 高等	
豫防				
稻作	苗代審査 模範苗代設置	巡廻指導 通告	各部落 全	模範トナスベ キモノナキ部 落ハコレナ省 キ隣接部落ノ モノヲ隨時見 學
養蠶				

上簇	春蠶上簇ニ對スル注意(五月下旬上簇)	印刷物	全	
麥苜收穫	麥苜ノ收穫調製上ノ注意(六月上中旬)	同上	全	
麥ノ收穫	麥ノ收穫及調製上ノ注意(六月上中旬)	同上	後一、 二	
蔬菜 手入	(一) 胡瓜ニ支柱ヲ施スコト(五月下旬) (二) 茄子、西瓜、甜瓜、冬瓜、南瓜ノ摘心及摘芽(五月下旬)	同上		
補肥	(三) 茄子、胡瓜、蕃茄、西瓜、南瓜、甜瓜ノ第二回補肥(六月上旬)			
養蠶 收購 販賣	(一) 收購上ノ注意 (二) 繭販賣上ノ注意	同上	全	



日 一 月 六	
日 十 月 六	
桑園 肥料 石灰施用	田植
<p>(三)桑園ノ後始末及中耕施肥 水田ニ石灰ノ施用法</p>	<p>(一)苗取ニツイテノ注意(六月中下旬) (二)本田整地上ノ注意 (三)田植上ノ注意 (四)本田基肥施用上ノ注意 (五)部落實習地本田耕種ニ就テ (六)苗代巡回指導</p>
印刷物	印刷物
全	全
各部團長 召集 巡視	
印刷物	印刷物
全	全

果樹 梨	葡萄 桃	柿	病虫害 瓜守	偽瓢虫 蚜虫
<p>(一)梨ノ副梢剪定(六月中旬) (二)梨ノ補肥(六月中旬) (三)葡萄ノ副梢剪定(六月中旬) (四)桃ノ補肥(六月中旬) (五)桃ノ摘心(同) (六)柿ノ摘果(同)</p>	<p>(五)馬鈴薯ノ收穫(六月中旬) (六)胡蘿蔔ノ下種(六月中下旬) (七)春蒔牛蒡、茄子、蕃茄、南瓜、甜瓜、越瓜、西瓜、里芋、薑、薯蕷補肥</p>	<p>(一)瓜類ノ瓜守ノ驅除、葉喰害ノ防止並産卵防止(六月上中旬) (二)茄子ノ偽瓢虫、蚜虫ノ驅除(六月上中旬)</p>	<p>畫間召集及 印刷物</p>	<p>畫間召集及 印刷物</p>
後三 高等	後三 高等	後三 高等	後三 高等	後三 高等
校內實習地其 他附近ニテ發				



露菌病 白澁病 黑痘病 透羽虫 蚜虫、心 喰虫、軍 配虫 驅虫劑 青虫 螟虫	(三)瓜類ノ露菌病、葡萄ノ露菌病白澁病黒痘病ノ豫防(六月中旬) (四)葡萄ノ透羽虫、梨及桃ノ蚜虫、梨ノ心喰虫軍配虫ノ驅除法(六月中旬)	生ノ病虫害ハ努メテコレヲ召集期マテ保存シ實地ニツキ指導スルヲ要ス
養蠶 桑園	(五)除虫菊ナフタリ石鹼合劑ノ調製並ニ其ノ撒布法 (六)苗代ノ青虫驅除(六月中旬) (七)螟虫ノ成虫驅除並卵塊ノ採取(六月中旬ヨリ)	
養鷄 育雛	桑園ノ中耕及施肥上ノ注意(六月中旬)	
	梅雨期ノ育雛(六月中旬)	
印刷物	印刷物	
全	全	

農産製造 飴 澱粉	(一)飴ノ製造 (二)澱粉ノ製造(馬鈴薯)	飴ハ麥芽ノ作り方及飴ノ製造過程ニアルモノノ標本ヲ前以テ準備スルヲ要ス
實驗 肥料	わぐねるぼつにニヨル三要素試驗 (1)材料「稻」 (2)種類 A 無肥料區 B 無窒素區 C 無加里區 D 無磷酸區 E 完全區	
蔬菜 挿植	甘藷ノ挿植(六月中旬)	
印刷物	同上	
後一	後三	



日 一 十 月 六	
日 十 二 月 六	
普通作物 播種	大豆ノ播種法並栽培設計
蔬菜 收穫	(一)葱頭、玉高苜ノ收穫(六月下旬)
補肥	(二)蕃茄、胡瓜、西瓜、里芋、薯蕷ノ補肥
果樹 補肥	(一)葡萄ノ補肥
病虫害	(二)密柑ノ敷草(六月下旬)
農産製造	(一)瓜類ノ露菌病豫防 (二)西瓜蔓割病豫防 (三)螟蛉蛹並蛾ノ驅除 (四)夜盜虫ノ蛹、金龜虫成虫驅除 (五)イラ虫ノ成虫驅除
	同上
	印刷物
	全
	後一

日 一 十 二 月 六	
日 十 三 月 六	
麵 實驗	麵ノ製造 (一)植物ノ所要成分及所要成分缺如ニヨル成育狀況(水耕法) 缺如シテ實驗スベキ成分、窒素、磷酸加里、カルシウム、鐵 (二)水耕法ト砂耕法及實驗上ノ注意
砂耕法	印刷物
肥料 綠肥	印刷物
稻作 插秧	巡迴指導 畫間召集 印刷物
蔬菜 補肥	同
收穫	同
	全
	後一 後三







日 一 十 月 七	
日 十 二 月 七	
養蠶 夏蠶 實驗 普通作物 中耕 除草 特用作物 收穫 蔬菜 收穫 補肥 果樹 袋換 收穫 病虫害	夏蠶掃立上ノ注意 花粉ノ人工媒助實驗 (一) 稻ノ二、三番除草 (二) 黍、粟、胡麻、大豆ノ中耕除草 關ノ收穫及調製 (一) 甜瓜、越瓜、西瓜ノ收穫 (二) 蕓、百合、莓ノ補肥 (三) 夏蒔胡蘿蔔ノ間引及補肥 (一) 梨ノ袋換 (二) 桃ノ收穫
印刷物	印刷物
畫問召集	畫問召集
全	全
後一	後一、 二、 後一、 高等
全	全
後三	後三
同上	同上
同上	同上
同上	同上

日 一 廿 月 七	
日 一 卅 月 七	
驅除 養蠶 夏蠶 實驗 稻作 蔬菜 中耕施肥 果樹 收穫	(一) 浮塵子ノ幼虫並成虫驅除 (二) イラ虫ノ幼虫驅除 (三) 偽瓢虫ノ成虫卵幼虫驅除 夏蠶飼育上ノ注意 (一) 地下水ノ高低ト作物 (二) 排水ノ良否ト作物 (一) 四番除草 (二) 稻生育ノ最盛期ニ於ケル灌排水 上ノ注意 (一) 蓮根ノ中耕 (二) 蕃椒ノ收穫
書問召集	書問召集
同	同
巡廻指導	巡廻指導
印刷物	印刷物
印刷物	印刷物
高等	高等
前後期	前後期
全	全
同	同
全	全
後、全	後、全
テ	テ
學校ノ蓮池ニ	學校ノ蓮池ニ











月 九	日 一 十
月 九	日 十 二
播種 收穫 栽植 果樹 補肥 病虫害 實驗 普通作物 稻作 收穫 蔬菜	手入 下種下栽 植 病虫害 養蠶 肥料 蔬菜 間引補肥 補肥 下種
(三)夏蒔胡蘿蔔ノ補肥 (四)體菜菠薐草ノ播種 (五)抑制胡瓜ノ下種 (六)百合ノ收穫 (七)薑ノ收穫 (八)秋冬ノ秋植栽植 ネーブルノ補肥 蘿蔔、菜類ノ蚜虫、コホロギ、サルハ虫ノ驅除 植物成分ノ實驗(無機分、有機分) 稻田ノ排水 甘蔗ノ收穫	(一)體菜ノ間引 (二)菠薐草ノ間引 (三)葱ノ土寄 (四)葱ノ下種 (五)葱頭ノ下種 (六)百合ノ栽植 (七)薑ノ栽植 夜盜虫、天牛、根切虫ノ幼虫驅除 上簇中ノ注意(秋蠶) (一)紫雲英ノ下種並栽培設計 (二)ザイトウキツケンノ下種並栽培設計
印刷物 同 書問召集 印刷物 印刷物 書問召集	印刷物 同 印刷物 書問召集
後一 高等 後全 後三	後二 高等 全學年
後一 高等科	後一 高等科

日 一 十	日 一 廿 九
日 十 二	日 十 三 九
手入 下種下栽 植 病虫害 養蠶 肥料 蔬菜 間引補肥 補肥 下種	手入 下種下栽 植 病虫害 養蠶 肥料 蔬菜 間引補肥 補肥 下種
(一)體菜ノ間引 (二)菠薐草ノ間引 (三)葱ノ土寄 (四)葱ノ下種 (五)葱頭ノ下種 (六)百合ノ栽植 (七)薑ノ栽植 夜盜虫、天牛、根切虫ノ幼虫驅除 上簇中ノ注意(秋蠶) (一)紫雲英ノ下種並栽培設計 (二)ザイトウキツケンノ下種並栽培設計	(一)體菜ノ間引 (二)菠薐草ノ間引 (三)葱ノ土寄 (四)葱ノ下種 (五)葱頭ノ下種 (六)百合ノ栽植 (七)薑ノ栽植 夜盜虫、天牛、根切虫ノ幼虫驅除 上簇中ノ注意(秋蠶) (一)紫雲英ノ下種並栽培設計 (二)ザイトウキツケンノ下種並栽培設計
印刷物 同 書問召集 印刷物 印刷物 書問召集	印刷物 同 印刷物 書問召集
後一 高等 後全 後三	後二 高等 全學年
後一 高等科	後一 高等科



月 十	收穫	秋蒔牛蒡ノ下種及栽培設計	印刷物	後一二 高等科
月 十	土盛	春蒔牛蒡ノ收穫 寒土當歸ノ土盛	印刷物	後一二 高等科
	病害	菜類ノ白斑病及根腐病ノ防除	畫間召集	後一、 二
	防除	サルハ虫ノ幼時驅除	印刷物	後三 高等科
	養蠶	秋蠶繭ノ販賣	印刷物	後三 高等科
	養鷄	鷄ノ孵化法	印刷物	高等科
	孵化	促成栽培		
	促成栽培	促成栽培豌豆ノ下種並栽培設計		
	下種			
	蔬菜	(一)蘿蔔、蕪菁、白菜ノ補肥		
	補肥			

日 一	手入	(一)體菜ノ間引補肥 葱ノ土寄	印刷物	後一
日 十	收穫	薯蕷ノ收穫		
	下種	蠶豆ノ下種並栽培設計	畫間召集	後二
	病蟲害	(一)柑橘ノ蒼癩病豫防 (二)桑ノ紋羽病、胴枯病、芽枯病及膏藥病豫防	畫間召集	後二
	防除	柿澁ノ製法	同上	高等科
	農産製造		同上	後全
	農業實驗	(一)根瘤バクテリアノ鏡檢 (二)土壤ノ色ト溫度トノ關係	畫間召集	高等科
	促成栽培	(一)促成トマトノ下種並栽培設計 (二)促成胡瓜ノ下種並栽培設計	畫間召集	高等科



日 一 十 月 十	
日 十 二 月 十	
普通作物 收穫	陸稻ノ收穫
蔬菜 補肥	蕪菁、白菜、水菜、菠菜草、夏蒔甘 藍ノ補肥
下種	豌豆ノ下種並栽培設計
收穫	慈姑ノ收穫
移植	秋蒔甘藍ノ移植
病虫害 防除	(一)夜盜虫ノ驅除 (二)蚜虫ノ驅除 (三)偽瓢虫ノ驅除
養鷄 育雛	育雛上ノ注意
農産製造 促成栽培	白柿ノ製法
	茄子ノ下種栽培設計
	印刷物
	同上
	後一
	印刷物
	同上
	後全
	印刷物
	同上
	後全
	印刷物
	同上
	高等科
	印刷物
	同上
	後全

日 一 廿 月 十	
日 一 卅 月 十	
普通作物 收穫	(一)稻ノ收穫調製 (二)米ノ審査要項 (三)落花生ノ收穫 (四)小豆ノ收穫
設計	麥作栽培設計並立毛審査要項
蔬菜 補肥 手入	蘿蔔、體菜ノ補肥 (一)葱ノ土寄 (二)秋蒔牛蒡ノ間引 土當歸ノ栽植
栽植	甘藷ノ收穫
收穫	換羽期ニ於ケル注意
養鷄 飼育	促成菜豆ノ下種並栽培設計
促成栽培	
普通作物	
	巡廻指導 印刷物
	印刷物
	後期
	印刷物
	同上
	後二 高等科
	印刷物
	同上
	高等科
	印刷物
	同上
	高等科
	印刷物
	同上
	高等科



日 一 月 一 十	
日 十 月 一 十	
播種 收穫	麥ノ播種 大豆ノ收穫
蔬菜 補肥 收穫	水菜、菠薐草、秋蒔牛蒡ノ補肥 體菜、葱、胡蘿蔔ノ收穫
果樹 收穫	蜜柑ノ收穫
農業製造	(一)晒箔ノ製法 (二)甘酒ノ製造 (三)大根淺漬ノ製法 (四)甘藷蔓ノ漬物製造
促成栽培 移植	茄子ノ移植
農業實驗	岩石ノ風化
書問召集	書問召集
印刷物	印刷物
同上	同上
後一	後二
全學年	後三 高等科
後一	後全
後二	同上

日 一 月 一 十	
日 十 二 月 一 十	
蔬菜 收穫	(一)蘿蔔ノ收穫、貯藏、審查要項 (二)蕪菁ノ收穫、貯藏、審查要項 (三)菠薐草ノ收穫、審查要項 (四)薑ノ收穫、貯藏、乾燥、審查要項 (五)夏蒔甘藍ノ收穫貯藏、審查要項
移植 設計	秋蒔甘藍ノ移植 蕪菁ノ栽培設計
農産製造	(一)大根切干ノ製法 (二)蕪菁ノ干枚漬ノ製法
肥料	硫酸加里、智利硝石ノ施用法
畜産	豚ノ飼養
印刷物	印刷物
書問召集	書問召集
後一	後三
後二	後三
後三	



日 一 廿 月 一 十					
日 十 三 月 一 十					
農業實驗	農產製造	養蠶 桑樹	畜產	果樹	蔬菜 收穫 補肥
		桑樹ノ耕耘結束 (一)大根ノ乾燥 (二)豆乳ノ製法 (三)甘藷切干ノ製法	牛ノ飼養	枇杷ノ霜覆	(一)白菜ノ收穫 (二)寒土當歸ノ收穫、審査要項 (一)水菜ノ補肥 (二)秋冬ノ補肥並小舍掛
畫間召集	畫間召集	印刷物	印刷物	印刷物	畫間召集
後二	高等科	全學年	同	全學年	後一、 二

日 一 月 二 十			
日 十 月 二 十			
促成栽培	蔬菜 定植 移植	果樹 數葉 棚下垣根 剪定	農產製造 農業實驗 促成栽培 移植 定植
(三)肥料ノ動物質ノ鑑別 促成胡瓜ノ定植	葱頭ノ定植 秋蒔甘藍ノ第三回移植	蜜柑ノ數葉 葡萄棚並垣根ノ作製法 葡萄ノ冬期剪定 澤庵漬ノ製法 保水力ニ就テ	(一)促成茄ノ第二回移植 (二)促成菜豆ノ定植 (三)促成莖ノ定植
印刷物	印刷物	畫間召集	畫間召集 同 同
高等科	後一 高等科	後一	高等科 後二 高等科







日 一	
日 十	
手入 蔬菜 補肥 果樹	麥ノ施肥中耕 葱頭ノ補肥 果樹園ノ耕鋤
養蠶	蠶種ノ保護
肥料	(一)肥料ノ價格計算 (二)豆粕ニ就テ
農産製造	味噌ノ製造
促成栽培 移植	(一)促成茄子ノ第三回移植 (二)促成トマトノ第四回移植
收穫 氣象	促成菜豆ノ收穫 日光ト作物トノ關係
	畫間召集 印刷物
	同上
	同上
	印刷物
	後一 同上
	同上
	高等科
	後二
	畫間召集
	高等科
	後三
	印刷物
	後三

日 一 十 月 一	
日 十 二 月 一	
蔬菜 果樹 實驗	豌豆ノ補肥 梨畑ニ石灰施用 (一)肥料中ノ水分ノ檢出 (二)同上土砂ノ檢出
農産製造	煉炭ノ製法
肥料	鶏糞ノ性狀及施用法
促成栽培	促成蠶ノ栽培設計
氣象	氣温ノ變遷
測量	線測量法 測量ノ器具
	同上
	同上
	印刷物
	同上
	同上
	畫間召集
	高等科
	後二
	同上
	同上
	後全
	同上
	後一



日 一 十 二 月 一				
日 一 十 三 月 一				
氣象	肥料	促成栽培	農業實驗	果樹 作物
				對角線法 麥ノ補肥土入 (一)柿桃ニ石灰施用 (二)苗木ノ消毒 肥料中ノ工場廢物ノ檢出 (一)促成栽培ニ使用スル醸熱物並踏込法ニ就テ (二)促成トマトノ定植 (三)日芋ノ半促成並栽培設計 魚肥ノ性質及使用方法
同上	印刷物	同上	畫問召集	印刷物
後三	後二	高等科	後三	後全 全學年

日 一 月 二				
日 十 月 二				
促成栽培	農業實驗	果樹 施肥中耕	蔬菜 補肥	測量
				地溫ノ觀測 線測量法 垂直線法並繫線法 (一)水菜ノ補肥 (二)蠶豆ノ補肥 茄子ノ播種ト苗ノ作り方 (一)密柑ノ中耕ト石灰加用 (二)桃ノ元肥施用 (三)葡萄ノ中耕ト石灰加用 (一)肥料中ノ有機物ノ檢出 (二)同窒素ノ檢出
印刷物	畫問召集	印刷物	畫問召集	畫問召集
高等科	後二	後一	後二	高等科



日 一 十 月 二					
日 十 二 月 二					
移植	肥料	氣象	測量	作物 施肥中耕	蔬菜 收穫
促成茄ノ第四回移植	骨粉ノ性質施用法	溫度ト植物トノ關係	支距法、畦畔測法	麥ノ施肥中耕	水菜ノ收穫
同上	同上	同上	畫問召集	印刷物	印刷物
後二	後三	高等科	同上	同上	同上
全學年					

日 一 十 二 月 二					
日 八 十 二 月 二					
促成栽培 定植	收穫	播種	肥料	氣象	測量
促成茄ノ定植	促成豌豆ノ收穫	早熟栽培、蕃茄、南瓜ノ播種並苗ノ作り方	油粕ノ性質ト施用法	濕氣ト植物トノ關係	線測量ニ於ケル野帳ノ記載法
畫問召集	印刷物	印刷物	同上	同上	同上
高等科	後全	後三	後三	高等科	同上
後一					











日 一 廿 月 三					
日 一 卅 月 三					
氣象	測量	普通作物	蔬菜	移植	補肥
肥料ノ配合 (一)風ノ起因 (二)風ノ效害	平板測量法 平板測器ノ使用法、射出法、周圍法 麥ノ中耕		蕃茄ノ移植 胡瓜ノ移植	(一)蠶豆ノ補肥 (二)春蒔牛蒡ノ補肥間引 (三)春蒔胡蘿蔔ノ補肥間引	(一)鵲豆ノ下種栽培設計 (二)菜豆ノ下種
同上	書問召集	巡廻指導並 印刷物	書問召集		
後三	高等科	全學年	後全		

日 一 廿 月 三			
日 一 卅 月 三			
果樹	蕃殖	促成栽培	肥料
(三)セルリノ下種栽培設計 (四)玉高苜ノ下種栽培設計	(一)枇杷ノ栽植 (二)蜜柑ノ栽植	(一)軟化土當歸ノ收穫 (二)半促成茄ノ定植 稻藁ノ處理法	施肥法
印刷物	同上	同上	同上
後一、二	高等科	全學年	高等科



附錄 二

愛知縣 櫻井農業補習學校經營一覽 (大正十五年五月末日現在)  
碧海郡

一、學校ノ區域及位置

1 區域 櫻井村全圖

2 位置 櫻井村大字東町 (村ノ殆ノ中央)  
(東海道線安城驛ヨリ約一里。  
碧海電鐵安城ヨリ「三州櫻井」下車二町)

二、沿革ノ大要

本村ニハ從來櫻井、小川、三ッ川、藤野ノ四青年夜學會ト一箇ノ裁縫專修學校トアリテ、前者ハ青年、後者ハ處女ノ補習教育機關タリシガ時世ノ進運ニ鑑ミ、大正八年新ニ學則ヲ定メテ本校ヲ創立シ、專任教員ヲ配置シ舉村一致ノ村是ニヨリ一校ニ統一シ、同年五月七日創立

開校式ヲ舉ゲ爾來逐年内容ノ充實ヲハカリツ、アリシガ、大正十四年四月更ニ學則ヲ改メ益々改善ノ實ヲ舉ゲ、今般青年訓練所設置ニ際シテモ僅ニ教練ニ對シテ些少ノ時間ヲ加フルノミヲ以テコレガ認定ヲ受ケ得ルニ至レリ。大正十二年二月十一日成績優良ノ故ヲ以テ本縣知事ヨリ表彰セラル。

三、教育ノ根本方針

實業補習學校規程並ニ青年訓練所規程ノ本旨ニ準據シ強健善良ニシテ實力アル農村公民ノ養成ヲ期ス。

四、組織

部別	種別	入學程度	修業年限	年齡範圍
男子	前期	尋常小學卒業	二	滿一三—一四
女子	後期	前期卒業及高等小學卒業	三	同一五—一七
部	高等科	後期卒業	三	同一八—二〇







性 別	教 諭			兼 任			備 考
	兼校長	教諭	助教諭	教諭	助教諭	囑託	
男	—	—	—	二	六	—	—
女	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	二	六	—	—

八、學級編成及生徒數

學級別	學 年	別	生 徒 數	備 考
第一學級	男子部後期一學年		四六	本年度ハ前期生ナシ
第二學級	同 二學年		二六	
第三學級	同 三學年		二七	
第四學級	同高等科 一學年		二八	
第五學級	同 二、三學年		三八	
第六學級	女子部前期全學年		二四	

九、就學出席狀況

第七學級	同後期及高等科	計
男	二七	計二七
女	—	計二七

年 度	就 學	步 合	出 席	步 合
大正十二年度	女男 九八、一三二	計 九六、五八	女男 八五、〇三	計 九〇、二八
大正十三年度	女男 九八、三五六	計 九七、一九	女男 九一、二七一	計 九一、七八
大正十四年度	女男 九八、二七五	計 九七、九四	女男 八九、二八九	計 九二、〇二

一〇、教授ニ關スル施設

A 教授方針

- 1 教材地方化、實用化↓愛郷心ノ涵養
  - 2 公民的教材ノ重視ト國民生活上ノ知識ノ附與
- 附錄二 櫻井農業補習學校經營一覽



- 3 青年心理へノ適應トコレガ助長純化、
- 4 自學自習ノ輔導ト實習實驗ノ尊重、

B

教授施設

- 1 教授要目、教授細目ノ制定ニ郷土の實用的、
- 2 教具其他設備ノ充實、
- 3 地方調査ノ確立、
- 4 教科書ノ選擇及編纂、謄寫物ノ利用、
- 5 教授法研究ニ殊ニ夜間教授トシテ、
- 6 晝間召集、毎月二回夜間教授ノ缺陷ヲ補フ、
- 7 考查ノ勵行、
- 8 高等國民講座、毎年五回五——七日晝間毎日六時間宛開設、課目、(職業科目、公民科目中ヨリ選擇、講師ハ斯道ノ専門家ヲ聘ス。生徒及村民ノ有志受講、)
- 9 見學旅行、團體的及中堅青年縣外視察旅行、

10 研究施設

- a 教師、研究部ノ設立、(農業研究部、公民研究部、普通科研究部)
- b 生徒、巡回文庫、教室文庫、學校圖書室開放、質問機關ノ設立自由研究ノ獎勵  
ト輔導、

11 實習施設

a 實習地、

(イ) 校內實習地、田Ⅱ二段五畝二十八步、畑Ⅱ一反二步、

區		劃	
田	畑	田	畑
耕種法研究田 經濟調査區	見本園 教師研究園	一反五畝二十八步 八畝	五畝二十步 四畝步
獻穀田 苗代	苗圃 溫床	一畝	十步 二坪



附錄二 櫻井農業補習學校經營一覽

二八六

(ロ) 部落實習地、田<sup>11</sup>二町八段九畝步、二十一ヶ所ニ設置ス。

(ハ) 家庭實習地、畑<sup>11</sup>二町一段三畝步、生徒各自之レヲ設置ス。

b 實習用建物、

建物		
農舍	一七、五坪、農具、作業、收納	肥溜舍
推肥舍	五坪	三坪
物置	三坪	鶏舍
		二坪外運動場六坪

c 實習用具、

農具ハ總テ高等小學校ノ農業科ト共同シテ使用ス。  
現在農具個數六百二十七點價格三百二十八圓七十一錢ニシテ普通使用ノ農具ハ

d 實習指導

スベテ之ヲ生徒數ニ應ジテ用意シ實習ニ支障ナシ。

- (イ) 指導曆ノ設定↓實習指導曆ヲ精密ニ定メ指針トス。
- (ロ) 巡廻指導、毎月二回定期巡視、其他隨時、同時ニ家庭農業ヲモ指導ス。
- (ハ) 校内實習地ニ於ケル指導↓晝間召集、
- (ニ) 農産製造、農業實驗指導↓晝間召集、
- (ホ) 印刷物指導、↓毎月三回ニ分チ其期間中ノ農業作業狀態ヲ印刷配布シ、家庭農業ノ指針トス。
- (ヘ) 實地見學、村内模範農場ノ設定、地方各種農業機關ノ利用。

e 實習處理、

實習日誌、實習慰安施設、品評會、

一一、訓練ニ關スル施設

A 訓練方針、

附錄二 櫻井農業補習學校經營一覽

二八七



質實剛健、勤勉力行、自治自律、共同ノ精神ヲ涵養シ、健實ナル農民ノ基礎ヲ確立セン  
トス。

B 訓練施設、

- 1 膝下訓練、學校長全生徒ヲ數組ニ分チ每週一回、ソノ膝下ニ集合セシメ、座談、感想ノ發表其他精神的訓練ヲナス。
- 2 校友會設置、自治活動ノ獎勵、
- 3 通學團設置、自治活動ノ獎勵、出席ノ相互獎勵、下校ノ際ノ人員點呼、
- 4 規約貯金、
- 5 奉仕作業、學校奉仕、社會奉仕、
- 6 學校手帳↓訓練手帳ニ代フ。
- 7 時間勵行、制服ノ統一、
- 8 役員會、出席獎勵、

一二、體育教練ニ關スル施設

A 體育教練ノ方針、

堅忍不拔剛毅ナル筋骨ト精神ノ鍛練、

B 施設、

- 1 滿月教練、毎月一回滿月ノ夜教練及軍事ニ關スル訓練ヲナス。必要ニ應ジ晝間ニ行フ場合アリ。
- 2 定期檢閲、毎年春秋二回、二——三日ニ亘リ教練ノ定期檢閲ヲナス。
- 3 身體檢査ト其ノ處置、
- 4 運動會、朝起會、寒稽古、
- 5 校友會ニ體育部ノ設置、選手派遣、
- 6 體育指導員ノ設置、

一三、外部連絡並獎勵ニ關スル施設

- 1 商議會ノ設置、諮問及指導ノ機關、  
第一種、名譽職ヨリ選任諮問及援助、



- 第二種、村内有職者、名望家ヨリ選任ニ諮問及援助、
- 第三種、在郷軍人分會役員、青年團役員ヨリ選任ニ指導、諮問、
- 第四種、産業上特殊技能アルモノヨリ選任ニ實業科目ノ指導諮問、
- 2 理事ノ設置、生徒監督、就學出席ノ督勵、
- 3 父兄會、
- 4 郡、村農會、農事試驗場、農學校其他各種團體トノ聯絡、
- 5 表彰、
  - a 出席表彰、個人及團體、
  - b 成績表彰、個人及團體、
- 一四、趣味及娛樂ニ關スル施設
- 主トシテ校友會ノ自治活動ニ任セ、體育部文藝部ヲ設置シテ概ネ左ノ事業ヲナス。
  - 競技會、文藝競技會（作文、詩歌、俳句、冠句等）學藝會、遠足、登山、運動會等。
- 一五、經費、（大正十五年度豫算）

收入	支						出
補助金	教員給	雜給	備品費	消耗品費	實習費	其他	計
127,000	1,477,000	1,111,000	1,230,000	100,000	45,000	190,500	2,583,500

（備考） 實習費ノ少額ニテ足ルハ實習地經營ヲ自給自足主義ニヨル結果ナリ。

一六、村勢一般

I 地勢交通、

本村ハ矢作川ノ西岸沖積地及洪積地ヨリ成リ平坦ナリ、殊ニ沖積地域ハ地味肥沃、洪積地域モ明治用水ノ開通ニヨリ開墾全ク成リ、今ヤ五十年前ノ山林原野ハ美田ト化シ、農耕ニ好適ナリ。

村内道路ヨク發達シ、殊ニ碧海電鐵ノ開通ニヨリ、愛知電鐵今村驛ニ連絡シ、中間東海道線安城驛ヨリハ電車ニ接続シテ僅ニ十數分ニシテ達シ得ルニ至リ、交通至便トナレリ。



2 土地

田	畑	山林	原野	宅地	其他	計
七六九・四二三反	五三五・一〇一反	五二・五〇〇反	三〇・一〇一反	八九五・四一〇反	八四九二反	一四四三六・四三六反

3 産業

村内戸數一二五〇戸中其大部分タル一一三〇戸ハ農家ニシテ、純然タル農村ト稱シ得ベク、主産業ハ米麥並養蠶養鶏ニシテ年々ソノ産額ヲ増加ス、主ナル農産物年産額左ノ如シ。

種目	數	量	金額	種目	數	量	金額
米		一九五九・二〇二石	七五、一九〇・四七四	養鶏收入			一五、二〇三・〇〇〇
麥		二三五・五六〇石	四七、四九六・六九二	養蠶收入			三六一、三二二・二〇〇
果實			二〇、一三〇・〇〇〇				
蔬菜			二九、四九五・〇〇〇				

4 戸口

職業	戸數	人		計
		男	女	
農業	一、一三〇	三、〇三〇	三、一一一	六、一四一
工業	一九	五八	五一	一〇九
商業	六五	一八六	一七七	三六三
其他	三六	一〇六	九四	二〇〇
計	一、二五〇	三、三八〇	三、四三三	六、八一三

村教育費	總額	一戸平均	村費百ニ對スル教育費ノ割合
教育費	三九、〇三八・二七〇	三・三三二	七四・六七
教育費	二九、一四九・〇五〇	三・三三九	
合計			



附錄二 櫻井農業補習學校經營一覽

二九四

小學校費	二五、〇六五・九五〇	二〇・〇五三	教育費ニ對ス	
補習學校費	二、五八四・五〇〇	二・〇六八	ル補習學校費	
其他ノ教育費	一、四九八・六〇〇	一・二九九	ノ割合	一〇・三一一

大正十五年六月廿五日印刷  
大正十五年七月一日發行

農業補習學校 實習指導の研究奥付  
高等小學校



著作者 杉浦源太郎  
發行者 東京市神田區錦町一丁目六番地 山本慶治  
印刷者 東京市小石川區戶崎町七十二番地 沖田瀧次郎

定價金貳圓五拾錢

沖田印刷所印刷

發行所

東京市神田區  
錦町一丁目

培風館

電話神田三七七四  
振替東京三二六一七



女子學習院教授 射手矢貞三先生著 (上下二卷)

六 版

# 少年太平記

菊判裝幀頗優雅  
六百頁繪卷挿入  
定價各冊一圓八十錢  
送料 各冊十錢

古來幾多の志士義人を感激奮起せしめたる千古の美文、太平記の全篇を少年少女にも容易に味得させたい爲、異常の苦心を以て之を現代文化せられしもの即ち本書である。著者は太平記の史績最も豊かな攝津に人となり、前後二十年間同地の學窓に史實を研究し、其の蘊蓄を以て國文を講じ、且つ本書に親炙し日夕愛誦し本書の眞髓を體得しただけあつて、筆致一點の無理もなく、流麗圓滑、原作の眞價を如實に發揮してゐる。即ち、原文の妙味は古文のまま、味得を容易にし、繁簡詳約宜しきを得故事成語の註解頗詳密平易、上下二卷百四十六章要所へに優雅なる繪卷を挿入し、華やかにも涙ぐまじき文字と共に夕日の前に舞ふ櫻花の如き悲壯なる光彩美を添へてゐる。稍もすれば青少年の思想浮薄輕佻に流れんとする現今、本書をして大和民族必備の國民的讀本たらしむること頗肝要なことであらう。特に本書は高等小學校補習學校用、及、青年訓練所用副讀本として、絶好の名著である。

東京市神田區 培風館 錦町一丁目  
電話 三三二六 振替 東京 二六七一  
電話 三三七七 田



272<sup>5</sup>

22



終

